

3000

人のならずもの

選択ルール

2022年11月15日

イントロダクション

この文書では、『3000人のならず者』のゲームにより多くのバリエーションと戦略と作戦を追加する3つのルールを紹介します。

これらは全部合わせてもうまくいくようにテストしていますが、別々に採用しても楽しめます。

重要:これらのルールは「長めのゲーム」(3日)でのみ採用が可能です(ルールブックP.12参照)。

初期手札の0

ゲームにさらに戦略をもたらすため、各プレイヤーは0のポーカーカード(+ランダムなカード3枚)を持った状態でゲームを開始します。

この選択ルールでは、各プレイヤーはゲームの1日目からブラフを強いられることになります。また、これによりゲーム開始時の状況もより平均化します。

追加のならず者

ならず者のコンボをより多くするため、各プレイヤーは自分のリーダーシートに(5人の代わりに)ならず者を6人まで置くことができます。6人目のならず者はリーダーシート左上の(通常は戦略カードを置く場所である)イラストの位置に置きます。

このならず者は通常どおり連鎖能力やその他の効果を発動します。

さらに「戦略カード」の選択ルールを採用する場合、戦略カードはリーダーシートの左側に置いてください。



ならず者6人と戦略カードを採用した例。

荒くれの酒場

この選択ルールでは、ゲーム序盤に登場するならず者の種類が増えます。準備の段階で、**仕事デッキ**は1つではなく**2つ**作成します。片方のデッキには紫の仕事を手紙を入れて、もう片方には黒の仕事を手紙の上、プレイヤー数に対応した枚数の緑の仕事を手紙を置きます。

特徴	仕事
2 ● 青1 20枚(一番上) ● 赤II すべて	● 緑 7枚(一番上) ● 黒 すべて
3 ● 青1 30枚(一番上) ● 赤II すべて	● 緑 9枚(一番上) ● 黒 すべて
4 ● 青1 40枚(一番上) ● 赤II すべて	● 緑 12枚(一番上) ● 黒 すべて

酒場の準備においては、緑のならず者2人を右側のスペースに作成します。その後、紫のならず者1人を左側のスペースに作成します。

ゲーム中、酒場には常に紫(♠)のならず者1人ともう一方のデッキのならず者2人がいるようにします。ならず者を作成する必要がある場合、酒場のならず者の色を確認してください。紫のならず者がいない場合、紫のならず者を作成します。そうでない場合、緑/黒の仕事デッキの一番上のカードでならず者を作成します。



この例では酒場に紫のならず者(♠)がいないため、新たに作成するならず者は紫の仕事デッキの一番上のカードと特徴デッキの一番上のカードを使用する。

一部の希な状況で、酒場に2枚目の紫のならず者が追加されることがあります。この場合、酒場の紫のならず者がいなくなるまでは新たに紫のならず者を追加しません。

荒くれの酒場のルール変更点

荒くれの酒場を採用することでならず者のバリエーションはより多くなり、様々な点でゲームに影響してきます。このバランスを取るため、以下のルール変更を適用します。

- 金庫の上限:**「1日につき金庫1つが上限」のルールに代わり、現在が**何日目かに関係なく**金庫の上限は常に3つになります。これを超えた場合、プレイヤーは通常のルールに従い金庫を放棄します。
- 仕事切れ:**めったに無いことですが、一方の仕事デッキのカードが切れた場合、新たなならず者はもう一方の仕事デッキのカードで作成します。